第３次釜石市生涯学習推進計画

令和５年３月

釜 石 市

目　　次

１　計画の策定に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

⑴　計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

⑵　計画の位置付け・整合性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

⑶　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２　釜石市の生涯学習を取り巻く現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑴　生涯学習とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑵　生涯学習をめぐる社会状況の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

⑶　第２次釜石市生涯学習推進計画の総括・・・・・・・・・・・・・・・・　５

⑷　令和３年度釜石市生涯学習基礎調査の結果概要・・・・・・・・・・１２

３　本計画の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

４　基本目標と施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

基本目標１　ライフステージや社会の要請に応じた学習機会の提供・・１８

基本目標２　地域全体で子どもを育む環境づくり・・・・・・・・・・・１８

基本目標３　生涯学習推進体制の整備と人材の育成・・・・・・・・・・１９

基本目標４　生涯学習拠点施設の適切な管理と整備・・・・・・・・・・２０

基本目標５　読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

１　計画の策定に当たって

(1)　計画策定の趣旨

釜石市は、平成 24 年 4 月に「第２次釜石市生涯学習推進計画」を策定し、東日本大震災により被害を受けた施設の復旧及び震災津波後の「生活応援センターを中心とした学び社会」と「生涯学習ネットワーク社会」の再構築を図りながら、「生涯学習の成果が循環する持続可能な学び社会」の実現を目指し、取り組んできました。

計画策定から 10 年が経過し、人口減少・高齢化の進展、急速な技術革新、グローバル化の進展など社会状況が急激に変化する中、持続可能な地域社会を構築するためには、一人一人が主体性を発揮し、多様な人と協働しながらさまざまな課題に対応していく必要があります。

また、人生 100 年時代を見据え、生涯を通じてさまざまな知識や時代の変化に対応したスキルを習得し、学びによって得られる人とのつながりを構築しながら、学んだ成果を自己実現やボランティア活動などに生かすことができるよう、「学び」と「実践」の循環が求められています。

令和 3 年 3 月に策定した「第六次釜石市総合計画」では、「一人ひとりが学びあい　世界とつながり未来を創るまちかまいし」を目指す将来像として掲げています。将来像に掲げる「学ぶ」とは、「力を新たに身につけ、新たな世界を広げること」です。一人ひとりが学びを通じて成長する喜びを感じ、学びあうことによってより多くの心に火を灯し、やがて地域全体に広がることで地域の構築を目指しています。この将来像を指針として、教育文化の基本目標を「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」と定めました。

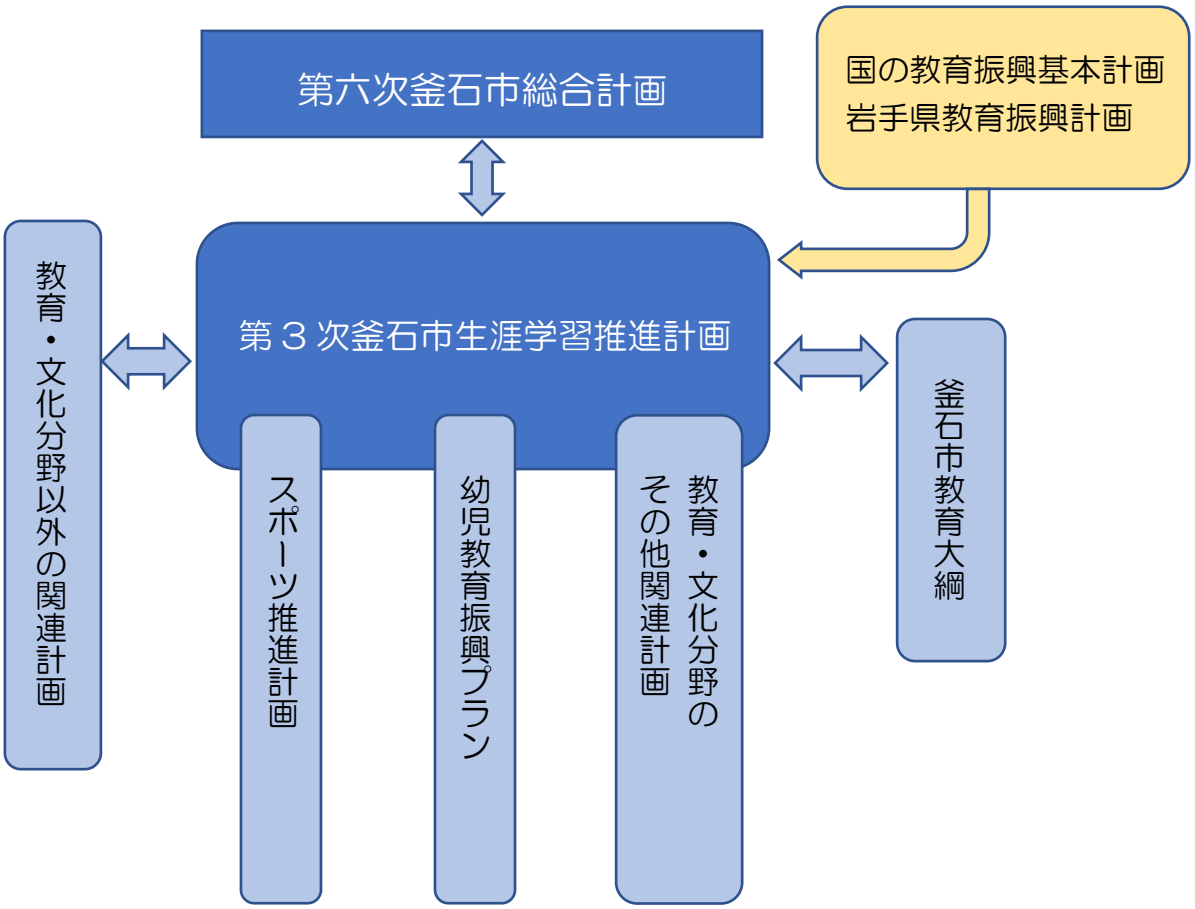
「第六次釜石市総合計画」に掲げる教育文化の基本目標の実現に向けて、第３次釜石市生涯学習推進計画を策定します。

(2)　計画の位置付け・整合性

本計画は、「第六次釜石市総合計画」を上位計画とし、まちづくりの基本目標の一つである「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」の実現に向けて、生涯学習分野における目標や施策を明示するものです。「釜石市スポーツ推進計画」や「釜石市幼児教育振興プラン」など、教育・文化分野の個別計画との整合、連携を図りつつ、これらの共通的な事項を記載する上位計画として位置づけます。スポーツの推進や幼児教育の充実などについては、個別計画において基本目標や目標値、施策の方向性などを示し、具体的な取り組みを推進します。

また、本計画は、国の「教育振興基本計画」及び「岩手県教育振興計画」を参酌するとともに、「釜石市教育大綱」や「釜石市地域福祉計画」などの教育・文化分野以外の関連計画との整合性を図ります。

＜計画の体系図＞



(3)　計画の期間

令和 4 年度から 13 年度までの 10 年間とし、中間年で見直しをする他、社会状況の変化を踏まえ必要に応じて見直しを行います。

２　釜石市の生涯学習を取り巻く現状と課題

(1)生涯学習とは

生涯学習とは、生涯の各時期（ライフステージ）において、それぞれの自由な意思に基づき、自分に適した方法によって生涯を通じて行う学習活動です。学校教育や社会教育の中での意図的な学習、組織的な学習の他、個人で行う学習活動を含み、スポーツ、文化、教養、趣味、レクリエーション、ボランティア活動などを指します。

一人一人がより豊かな人生を送ることができる持続可能な社会づくりを進めるために、個人が知識や技能を身に付け、教養を高めて充実した生活を送るのはもちろんのこと、学びを通じた人とのつながりや学習の成果を、地域での活動などに生かすことのできる生涯学習社会※の構築の必要性が高まっています。

(2)生涯学習をめぐる社会状況の変化

〇人口減少・少子高齢化の進展

我が国は少子高齢化が急速に進展し、総人口は 2011（平成 23）年以降、一貫して減少しています。また、人口構成も変化し 1997（平成 9）年には 65 歳以上の人口が 15 歳未満の人口を上回るようになりました。

釜石市の人口は、1963（昭和 38）年の 92,123 人をピークに、現在まで減少が続いています。2020（令和 2）年の国勢調査人口は 32,078 人で、うち 15 歳未満は 2,950 人、15～64 歳は 16,295 人、65 歳以上は 12,833 人となっています。総人口に占める 15 歳未満の割合は、9.2%となっており、5 年前の 9.9%と比較しても、少子高齢化が顕著となっています。

〇高度情報化社会の進展

情報通信技術（ICT）の発達とスマートフォンなどの情報通信機器の普及に伴い、人々の価値観や生活様式は多様化しています。今後は IoT※や人工知能（AI）、ビッグデータ等をはじめとする技術革新が一層進展し、市民生活、企業活動、行政サービス、雇用環境などが大きく変化していくと予想されます。

このような中、数多の情報の中から必要な情報を主体的に選択する力や情報モラルなどの基本的な情報活用能力を身につけることが、重要な課題となっています。

※教育基本法第 3 条に生涯学習の理念が規定されている。

第三条　国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

※IoT（Internet of Things）……モノのインターネット。人を使わずモノが自動的にインターネットとつながる技術のこと。

〇安全・安心への意識の高まり

地震、津波、大雨などの自然災害の発生や、地域温暖化などの環境問題、国民保護、犯罪、交通事故、虐待、貧困などにより、安全・安心への関心が高まっています。

私たちが暮らしていく上で安全・安心な地域社会を構築していくためには、ハード面での整備にとどまらず、人と人のつながりやコミュニティの維持と活性化、地域社会における課題解決のための活動などが求められており、生涯学習の果たす役割は一層重要となっています。

〇持続可能な開発目標への貢献の必要性

持続可能な開発目標「ＳＤＧｓ」(Sustainable Development Goals) とは、2015（平成 27）年 9 月の国連サミットにおいて採択された、貧困、健康、経済、気候変動などグローバルな課題に対する国際社会の共通目標です。「誰一人取り残さない」を共通の理念としており、17 のゴール（目標）と 169 のターゲット（具体的な達成基準）が示されています。

教育に関する目標として、目標 4 に「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」と定められています。

「第六次釜石市総合計画」においても「ＳＤＧｓ」の理念を盛り込み、各種施策を推進することとしています。

〇人生 100 年時代の到来

医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上などにより平均寿命が伸長し、人生 100 年時代の到来が予測されています。生涯に二つ、三つの仕事を持つことや、働きながら、または引退後にボランティア活動などをすることが一般的になると考えられます。

人生 100 年時代を豊かに生きるために、若者から高齢者まで、生涯を通して知識や時代の変化に対応した能力を身に付けることができるよう、生涯を通じて学び、活躍できる環境をつくることが重要です。

〇コロナ禍における生活様式や働き方などの変化

新型コロナウイルス感染症の拡大は、市民生活や地域経済に大きな影響を与えています。感染を予防するため、マスクの着用や手洗いの励行、密閉・密集・密接を避けるなどの「新しい生活様式」の実践やイベントなどの制限、インターネットショッピングの利用増加、テレワークやワーケーションといった場所に捉われない働き方が進むなど、私たちのライフスタイルは変化しています。コロナ禍における持続可能な活動の在り方について模索していくことが求められます。

(3) 第２次釜石市生涯学習推進計画の総括

基本方針 学びと実践が循環する生涯学習社会を目指して―復興、そして振興へ―

「つながり」「希望」「幸せ」「生きがい」「元気」をキーワードとした5つの基本目標の達成に向け、目標値を設定し取り組んできました。

① 第２次釜石市生涯学習推進計画の目標と現状値

目標項目	単位	目標値			現状値	
		24年度	28年度	令和3年度	28年度	令和3年度
市民一人当たり生涯学習講座への参加回数	回／年	0.5	0.5	0.9	0.7	0.4
市民一人当たり公民館利用回数	回／年	1.8	1.9	2.2	1.9	1.6
学校支援地域本部事業実施校　※1	校	4	9	14	2	5
学校支援ボランティア活動延べ人数　※2	人／年	600	800	1,000	525	682
市民１人当たり図書貸し出し冊数	冊／年	2.7	3.0	3.3	2.5	2.2
市民１人当たり市民文化会館利用回数	回／年	－	2.0	2.0	―	1.7
市民１人当たりスポーツ施設利用回数	回／年	6.6	7.2	8.3	6.4	4.6(※3) 1.2(※4)

※1　令和3年度は地域学校協働本部実施校数

※2　令和3年度は地域学校協働活動ボランティア延べ人数

※3　市民１人当たりスポーツ施設（市所有施設分）利用回数

※4　市民１人当たりスポーツ施設（学校施設開放事業分）利用回数

全ての項目において、令和3年度の現状値が目標値を下回っており、特に市民一人当たりの生涯学習講座への参加回数や公民館利用回数、図書貸し出し冊数は平成28年度よりも令和3年度のほうが低い数値となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため行われた社会教育施設の休止や利用の制限、催しの中止などの影響が現れています。

② 基本目標ごとの取り組み状況

●基本目標Ⅰ　全ての人に拓けた、明るい学びのまち

●施策の方向性と具体的な施策

施策の方向性	具体的な施策
いつでも、どこでも学べる環境のまちづくり	生涯学習環境の復旧 生涯学習推進体制の整備 生涯学習ネットワークの形成
それぞれ手を取り合いながら生活するまちづくり	男女共同参画の推進 交流の場の創出
地域社会の中で、自主的に活動できるまちづくり	地域・部門別リーダーの育成 社会参加の促進

＜現状と課題＞

・東日本大震災で被災した学校施設及び社会教育施設の復旧整備は完了しました。

・市内 8 カ所にある公民館を中心に、ライフステージに応じた事業を実施している他、大学と連携した講座や国際理解支援事業、生涯学習まちづくり出前講座、世代間交流、各種サロン事業、健康づくりなどを実施していますが、参加者の固定化や男性の参加が少ないなどの課題があります。また、学習した成果を自らの生活に生かしたり、活動を継続するための支援や仕組み作りが必要となっています。

・男女共同参画については、「男女共同参画サポーター養成講座」の認定者数が目標を上回る見込みであり、各種審議会における女性委員の割合が 4 割を超えるなど推進につながっていますが、新たな女性人材の発掘が課題となっています。

＜今後の方向性＞

・市民の学習ニーズを把握しつつ、社会情勢や地域のさまざまな課題解決に向けた学習機会が提供できるよう事業内容を精査しながら実施します。また、事業の実施に当たっては、感染症予防対策を徹底し、オンラインの活用も視野に入れながら、事業展開をしていく必要があります。

・教育行政情報や公民館事業、地域の出来事などの情報を、現在は広報かまいしや教育広報、まなびぃ釜石、公民館だよりなどで周知しています。幅広い年代に生涯学習に関する情報を届けることができるよう、これまでの方法を継続するとともに、市のホームページや LINE を積極的に活用した情報提供をする必要があります。

・学習した成果を自らの生活や地域社会で生かすことができるよう、自主活動グループへの参加を促したり、新たなグループの立ち上げを支援します。

●基本目標Ⅱ　安心快適で、笑顔あふれる学びのまち

●施策の方向性と具体的な施策

施策の方向性	具体的な施策
みんなの手を借りながら、安心して子育てが行えるまちづくり	幼児教育の充実 地域ぐるみの子育てへの支援
学校・PTA・地域・行政の連携で、伸びやかな子どもを育てるまちづくり	特色ある学校経営の展開 学校施設等の整備
安全な生活環境のもとで、快適な生活ができるまちづくり	防災や生活環境に関する学習

＜現状と課題＞

・地域の中で子育てを見守り支援していくことができるようにファミリーサポートセンター事業などを実施した他、「子育て応援ガイドブック」を発行し、子育て支援に関する事業を広く周知しました。また、幼児期から初等教育への円滑な接続ができるよう、関係機関が連携を図る必要があります。

・小中学生については、スクールガードによる登下校の見守りや、放課後子ども教室の開催などが行われていますが、さらなる活動地域の拡大が課題です。

・各小中学校においては、防災教育を核とした「いのちの教育」を実施しており、今後も継続することが望まれます。

・各地域で実施している防災講演会などのニーズは高まっていますが、参加者数が伸び悩んでいます。防災訓練は地域によって温度差があり、全体的な底上げが必要となっています。また、一般市民を対象とした自然観察会やごみ減量出前講座などの参加人数の増加や利用拡大が課題となっています。

＜今後の方向性＞

・幼児教育アドバイザー等を配置し、保育者の資質向上や園内研修期間の確保・質の向上、幼保小連携の推進を目指します。また、保護者などからの相談への対応の強化や、家庭教育の重要性を啓発するための保護者向け各種講座の開催に努めます。

・地域ぐるみで子育てを支援し学習活動を推進していくため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と連動しながら地域学校協働活動や放課後子ども教室の拡大を目指します。

・各地区生活応援センターを中心に地域会議を核とした防災訓練を開催し、防災意識とノウハウの向上を図る必要があります。

・環境保全意識の向上に向けて、今後も安全面に配慮しながら自然観察会などの事業を継続して実施します。

●基本目標Ⅲ　芸術文化の薫り高い学びのまち

●施策の方向性と具体的な施策

施策の方向性	具体的な施策
気軽に芸術文化の活動に触れることのできるまちづくり	芸術文化活動の推進 社会教育施設等の充実
地域ぐるみで文化財を守り、継承していくまちづくり	文化財の保護と活用

＜現状と課題＞

・釜石市民文化会館に代わる新たな拠点施設として整備された釜石市民ホールを中心に、芸術文化活動・音楽活動の発表や質の高い芸術鑑賞の場の提供に努めています。また、釜石市民芸術文化祭や働く婦人の家まつりなどを通して、芸術文化活動の成果を発表していますが、会員の減少や後継者不足、活動資金の減少が生じており、今後の活動の低迷が危惧されます。

・郷土資料館の内容充実と利用者の利便性を高めるため、平成 30 年に大規模改修を行いました。鉄の歴史館をはじめとする世界遺産関連施設や図書館、公民館などについても適切な維持管理と改修が必要となっています。

・歴史・文化財・郷土芸能の保存と活用を図るため、文化財の把握とともに、鉄づくり体験や鉄の検定などを実施し、郷土の歴史や文化財の啓発普及に努めています。また、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査では、屋形遺跡（唐丹町大石）が国指定となる成果がありました。

・平成 27 年 7 月に明治日本の産業革命遺産として橋野鉄鉱山が世界遺産登録されました。橋野鉄鉱山の保全と活用を推進するため、平成 30 年 3 月に「橋野鉄鉱山の保存・整備・活用に関する計画」を策定し、構成資産の調査、整備、公開を行っています。世界遺産登録の翌年から、関連施設来所者の減少が課題となっています。

＜今後の方向性＞

・芸術文化の活性化に向け、小中学生が芸術文化に触れる機会を創出するなど、若年層への働きかけを行います。また、活動成果を発表する機会を確保するとともに、各活動団体に対して、各種助成金制度の情報提供や申請手続きの補助などを行います。

・今後を見据えた適切な施設の維持管理に努めながら、施設や事業の在り方について引き続き検討をしていきます。

・釜石の文化や歴史を未来へ継承するため「釜石市文化財保存活用地域計画」を策定し、文化財を適切に保存し活用します。また、屋形遺跡の発掘調査と環境整備を行います。

・市内に点在する世界遺産関連施設を適切に保存・修復し、後世に残すとともに、施設の周遊による観光や学習の場への活用を図りながら、橋野鉄鉱山の普及啓発及び理解増進を進めます。

●基本目標Ⅳ　健康長寿で、いきいきと暮らす学びのまち

●施策の方向性と具体的な施策

施策の方向性	具体的な施策
生涯にわたって健康的に過ごすまちづくり	乳幼児の健康づくり 成人の健康づくり 高齢者の健康づくり 食育の推進
手を差し伸べることが当たり前のまちづくり	特別支援の充実 高齢者の生きがいづくり

＜現状と課題＞

・乳幼児から高齢者までライフステージに応じた栄養指導、健康相談などを行い、健康づくりをサポートしています。各地区生活応援センターを中心に健康教室や健康相談を行っていますが、参加者の固定化が課題となっています。

・健康チャレンジポイント事業は事業内容を見直しながら展開しており、参加者の健康づくりのきっかけとモチベーションの維持につながっています。

・健康保持・増進を目的としてスポーツ指導員による健康体操を各地区生活応援センターや町内会単位で実施しており、持続した事業展開が必要です。

・高齢者を対象に、閉じこもり予防教室、100 歳体操、歯つらつ健口教室、認知症予防教室などを実施していますが、全体的に男性の参加が少ないことが課題となっています。

・高齢者を介護している家族等を対象に介護者の「健康づくり」を学ぶ講座を開催しており、さらに地域で介護予防等に資する活動を行おうとする地域住民団体に活動費を助成していますが、地域団体の掘り起こしが課題となっています。

・小学校の就学時健診にあわせて、子ども・子育て学習講座を開催し、「早寝早起き朝ごはん」の重要性を周知していますが、全校で実施できておらず、学習機会の拡大が必要です。

・特別な支援を必要とする幼児、児童生徒は増加傾向にあり、一人一人の子どもの障がいの状態や発達の段階に応じた支援・指導が求められています。小中学校に特別支援教育支援員を配置していますが、全ての小中学校に支援員を配置することが困難となっています。

・臨床心理士の資格を持った職員を市に配置し、支援が途切れることのないようコーディネートを行いました。

・敬老事業や老人クラブ活動などに参加することにより、閉じこもり予防や生きがいの創出が図られています。事業の周知や安全に配慮した社会活動を行えるよう支援することが重要となっています。

＜今後の方向性＞

・母子健康手帳交付時から出産、子育てまで切れ目なく母子を支援していけるよう今後も訪問指導や各種教室などを継続実施します。

・健康づくりに関する事業への成人層（特に若い世代）の参加者拡大に向けて、アプローチの仕方や事業内容を見直すとともに、自主的な取り組みにつながるよう支援に努めます。
・高齢者の健康づくりでは、関係機関と連携しながら事業を継続していくことが必要です。特に 100 歳体操を継続することで得られる身体的・精神的・社会的な効果を周知し、自主活動団体の増加に努めます。
・「早寝早起き朝ごはん」の重要性の理解促進を図るため、子ども・子育て学習講座等の開催機会の拡充に取り組みます。
・特別な支援を必要とする幼児が安心して幼児教育施設で過ごすことができるように、障がいや医療的ケアに関する正しい知識の普及を進める研修会の実施や、教職員を対象とした相談、情報交換などの機会を創出します。
・高齢者の生活や健康などに関する相談の機会を確保するとともに、健康づくりや教養の向上、レクリエーション活動の支援、交流の場の提供など継続して事業を実施していく必要があります。また、各自主活動グループや老人クラブ活動などへの支援を行います。

●基本目標Ⅴ　躍動感に満ち、はつらつとした学びのまち

●施策の方向性と具体的な施策

施策の方向性	具体的な施策
スポーツを通して明るく暮らすまちづくり	生涯スポーツの推進 競技スポーツの振興 体育施設の利用促進 体育施設の整備
産業が盛んで、活気に富んだまちづくり	職業の知識を高める学習

＜現状と課題＞

・新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで継続的に実施してきた健康マラソン大会を令和 3 年は実施できませんでした。しかし、ニュースポーツの普及や各種スポーツ教室をスポーツ推進委員や体育協会と連携を図って実施しており、各種スポーツ教室の利用は横ばいで推移しています。
・競技スポーツにおいては、大会参加助成などの側面からサポートをしていますが、児童生徒数の減少により競技等に必要な人数を確保することができず、学校間の合同部活動の実施など活動に支障が出始めています。
・東日本大震災からの復興の象徴として釜石鵜住居復興スタジアムが完成し、市民体育館も復旧しました。完成後は利用促進の一環としてプロスポーツの公式戦やスポーツ合宿を誘致しているところです。ラグビーワールドカップ 2019™日本大会の効果もあり、ラグビーを中心とした合宿を多く受け入れています。

・職業に関する知識を高めるため、小中学校ではキャリア教育を年間計画の下、実施しています。また、地域学校協働本部を設置し、地域にいる人材の協力を得てさまざまな職業の知識を高める取り組みを行っている学校もありますが、設置校が 5 校となっており、今後、拡大していく必要があります。
・高校生については、市内外で活躍するさまざまな社会人との対話セッションや講演を通じて職業観の醸成を行う「Kamaishi コンパス」を実施し、郷土愛の醸成と地域の担い手人材の育成を行っています。また、釜石・大槌産業育成センターでは「釜石・大槌地域産業フェア」を開催し、地域企業が持つ技術や製品等について企業展示し、市内高校生に広く周知することで、地域におけるものづくり人材の育成に寄与しています。
・職業訓練事業への一部補助や地域団体への負担金を支出することにより、職業訓練や地域の職業に関する学びの機会を確保している他、地域雇用サポート事業で運営する「ジョブカフェかまいし」で毎月各種セミナーを開催しています。セミナーへの参加が就業につながる例も出始めていますが、参加者を増やすことが課題となっています。

＜今後の方向性＞

・生涯スポーツは健康増進や仲間づくり、交流の場にもつながることから、市民のスポーツに触れる機会をさらに創出していくとともに、活動の支援を行っていきます。
・学校部活動から地域活動として地域の人材が指導等を担う地域部活動への移行や、学校間の合同部活動の推進については、国の動向等を注視しつつ、地域の実情を踏まえながらそのあり方を模索していきます。
・スポーツを通じて地域を活性化させることを目的として引き続き合宿誘致を図ります。また、施設情報を発信するためにも、プロスポーツの公式戦やイベントを実施できるよう取り組みます。
・小中学校におけるキャリア教育においては、ICT を活用した先行事例等の情報提供を充実させていくとともに、地域の力を生かしながら職業の知識を高める学習の推進を図ります。
・高校生が地域の魅力に気付く・発見できる機会の創出と、地域企業者や行政、高校がコラボし、地域の課題解決や地域資源の活用につながる仕組み作りを、教育魅力化コーディネーターの活用などを通して構築していきます。また、人材育成と域内雇用の定着を目指した取り組みを推進します。
・「ジョブカフェかまいし」のセミナー参加者の増加を目指し、利用者のニーズの把握に努める他、潜在労働者の発掘や企業における採用後の課題解決にも寄与するセミナーの開催などの取り組みを進めます。

(4)　令和３年度釜石市生涯学習基礎調査の結果概要

市は、令和 3 年 8 月から 9 月にかけて市民 1,500 人を対象に、釜石市の生涯学習について市民の活動実態や意識についてアンケート調査を行いました。

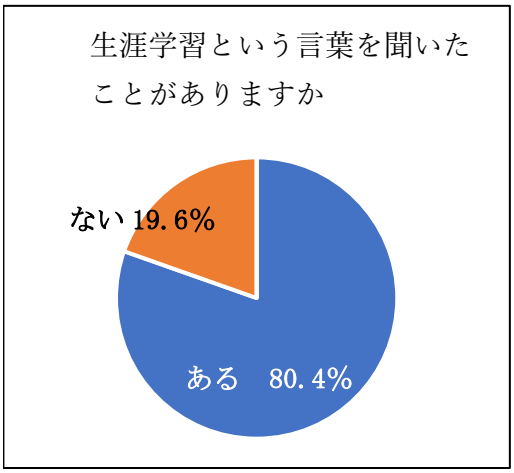
■調査の概要

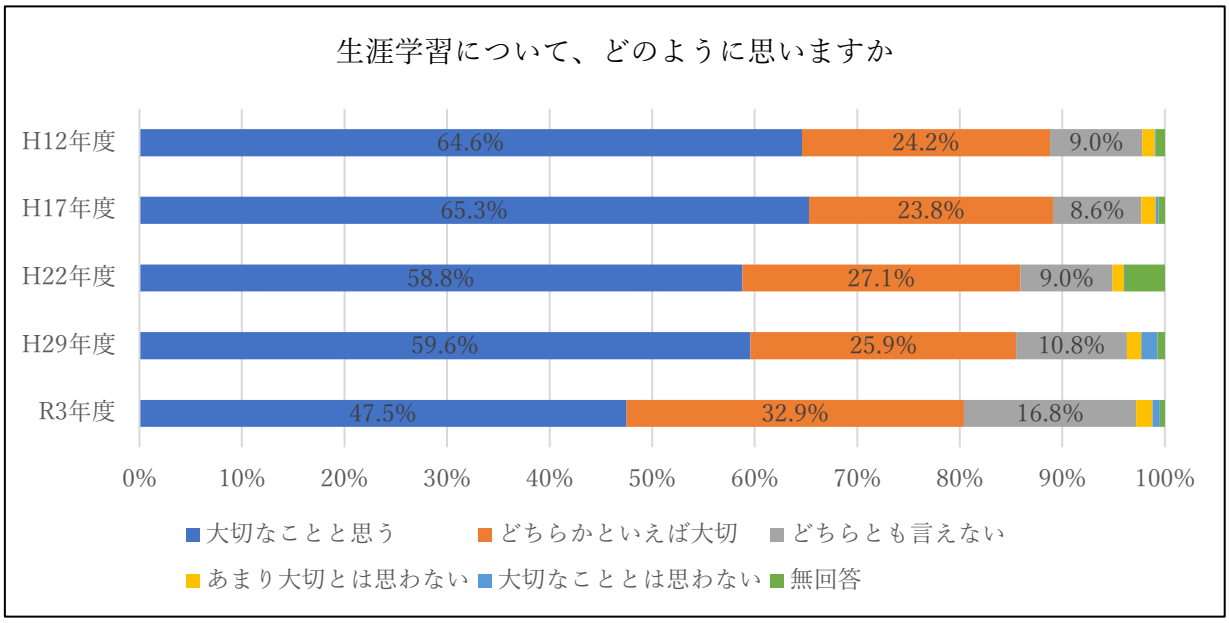
〇対象　16 歳以上 80 歳未満の市民　1,500 人（無作為抽出）
〇調査時期　令和 3 年 8 月 20 日～9 月 3 日
〇調査方法　郵送
〇回収率　40.5%（回答数　608 通）

■アンケート結果の概要

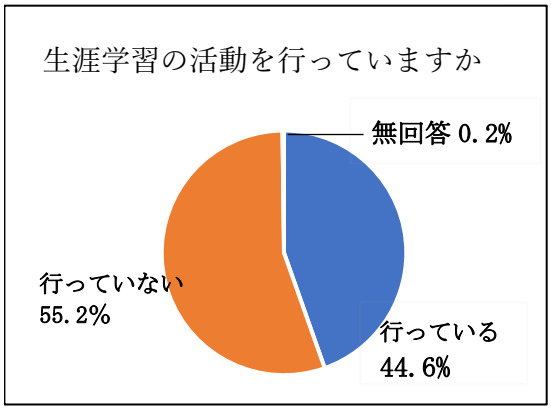
◎生涯学習についての認識

アンケート結果をみると、約80%の人が生涯学習という言葉を聞いたことがあると回答しています。生涯学習を「大切なことと思う」「どちらかといえば大切」と回答した人の割合は前回（平成29年度）調査時から減少し、「どちらとも言えない」と回答した人の割合が増加しました。価値観の多様化が進む中で、生涯学習を大切だと思う人の割合が減少しており、生涯学習そのものに対する理解を深める取り組みを進める必要があります。





◎生涯学習の活動の実態



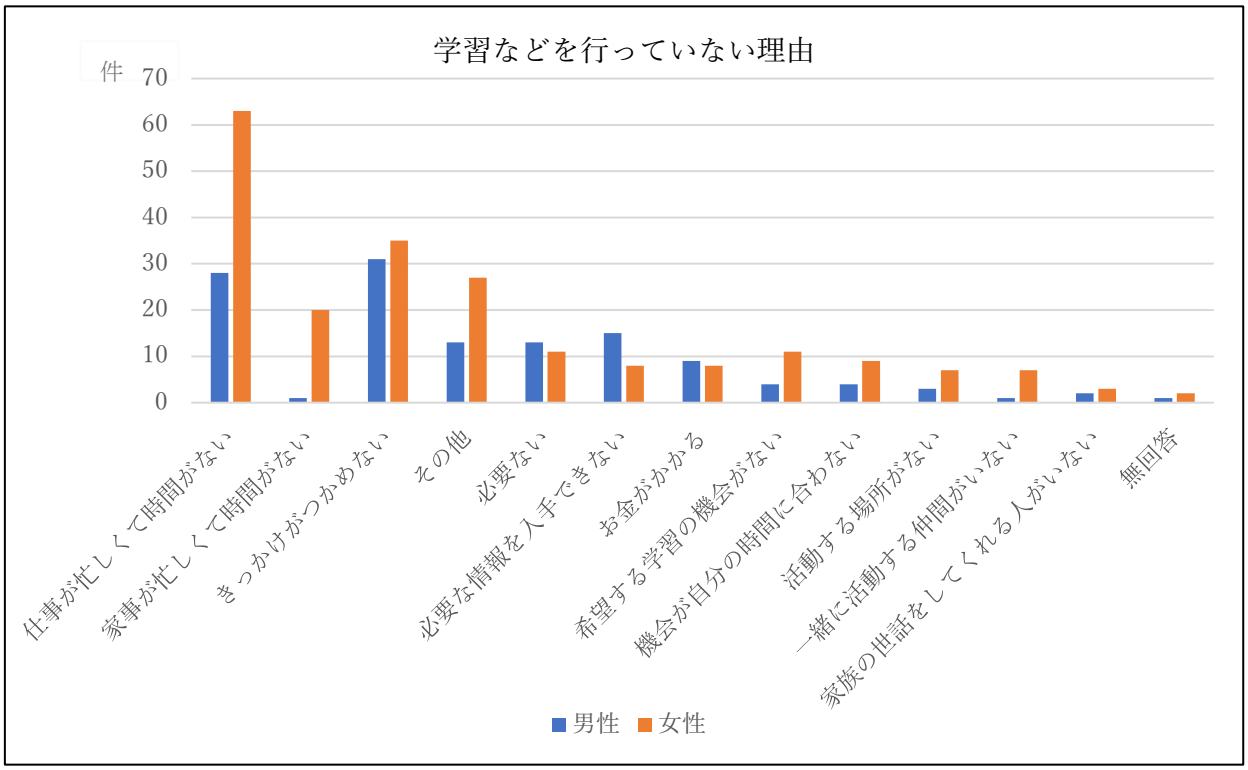
生涯学習の活動を行っていると回答した人は、44.6%。前回と比較して4.6 ポイント増加しています。

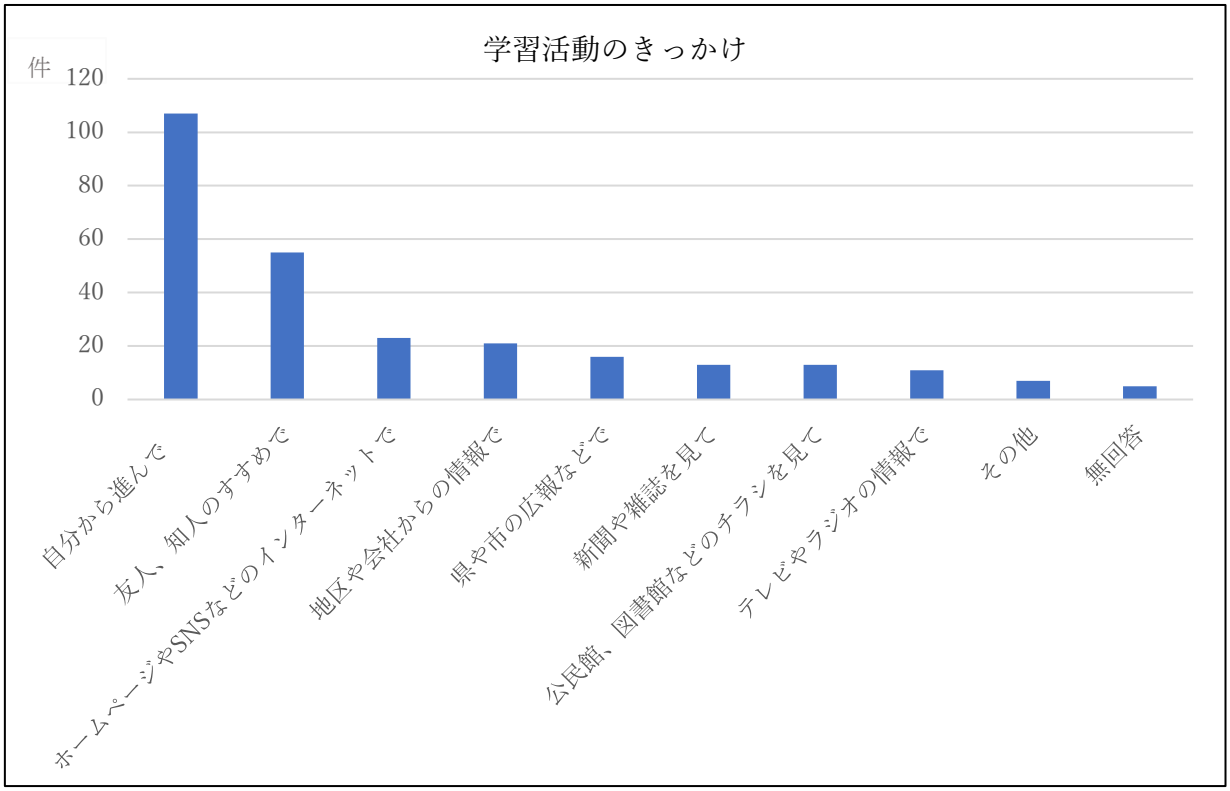
生涯学習の活動を行っていない理由は「仕事が忙しくて時間がない」「家事が忙しくて時間がない」を合わせると33.4%の人が「時間がない」を理由に挙げています。特に男性は「きっかけがつかめない」と回答した数が最も多くなっています。「その他」の回答が前回と比較して7.2 ポイント増加しており、体調不良やコロナ禍、時間に拘束されたくないといった回答がありました。また、自由記載の中でオンラインでの講座や参加しやすい時間設定を求める声も見られました。

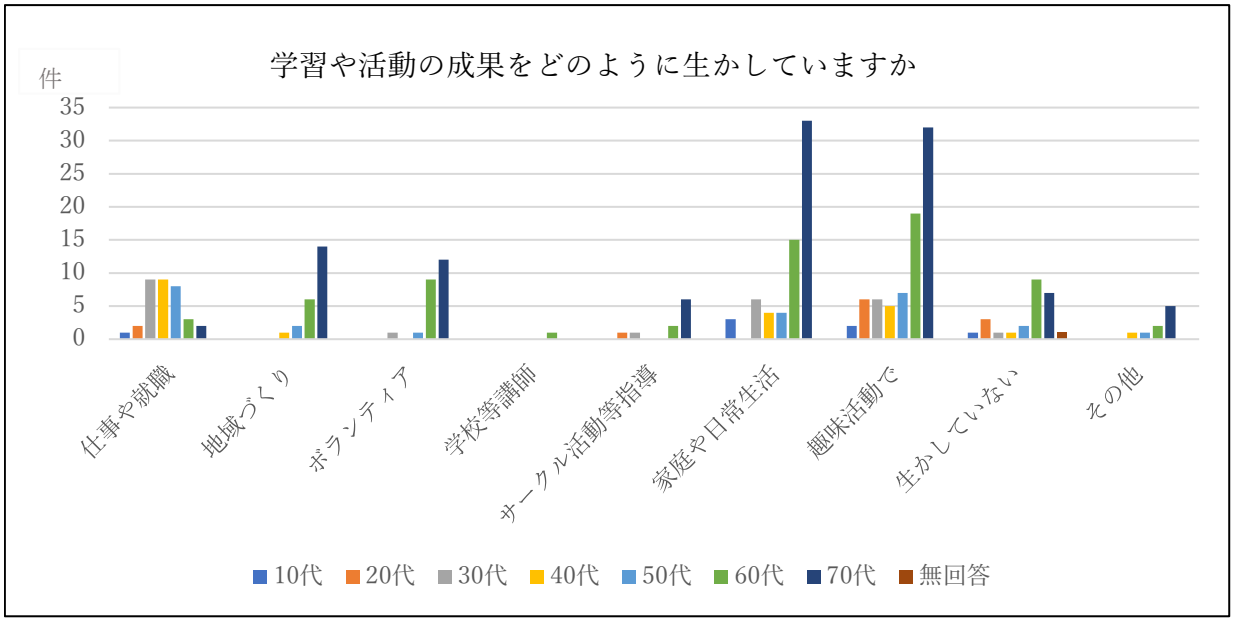
学習や活動のきっかけは、「自分から進んで」「友人、知人のすすめで」「ホームページやSNSなどのインターネットで」の順になっています。

学習や活動の成果をどのように生かしていますかとの問いに対しては、全体では「趣味活動」「家庭や日常生活」との回答が高くなっていますが、30 代～50 代は「仕事や就職」が多く、60 代～70 代では「地域づくり」「ボランティア」との回答が目立ちます。

これらのことから、学び始めるきっかけづくりや、参加しやすい時間や方法の工夫、仲間とつながりながら楽しく学び活動できる環境づくりが必要であることが分かりました。

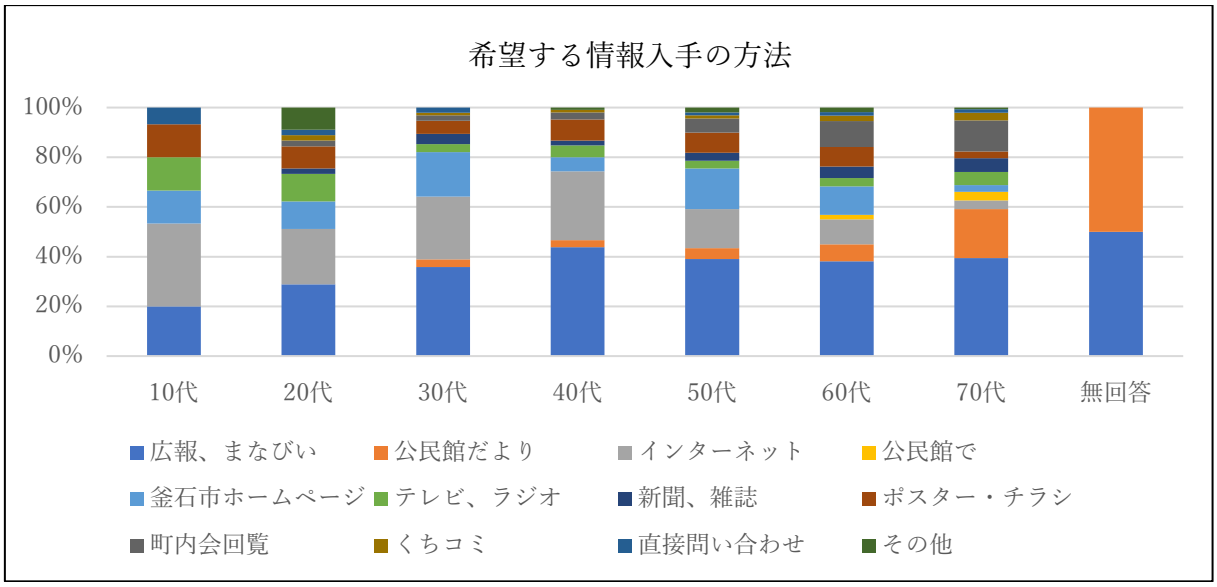



学習活動のきっかけ
件
120
100
80
60
40
20
0
自分から進んで
友人、知人のすすめで
ホームページやSNSなどのインターネットで
地区や会社からの情報で
県や市の広報などで
新聞や雑誌を見て
公民館、図書館などのチラシを見て
テレビやラジオの情報で
その他
無回答


学習や活動の成果をどのように生かしていますか
件
35
30
25
20
15
10
5
0
仕事や就職
地域づくり
ボランティア
学校等講師
サークル活動等指導
家庭や日常生活
趣味活動で
生かしていない
その他
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代
無回答

◎生涯学習に関する情報入手の方法

希望する情報入手の方法は、全体では「広報、まなびぃ釜石」「インターネット」「釜石市ホームページ」の順となりますが、10 代～30 代では「インターネット」「釜石市ホームページ」を合わせた回答数が「広報、まなびぃ釜石」「公民館だより」を合わせた回答数よりも多く、40 代～70 代ではその逆になります。また、60 代、70 代では「町内会回覧」の割合が 1 割を超えており、年代によって希望する情報入手の方法が異なることが分かります。これらのことから、さまざまな方法を組み合わせた情報発信が必要ということが分かります。



◎これから学習したいこと

これから学習したい内容は、全体では多い順に「健康づくり」「スポーツ・レクリエーション」「衣食住に関する知識や技能」「防災に関すること」「環境問題や自然保護に関すること」となっています。年代別でみると、10 代は「職業に関する知識や技能」、20 代と 30 代は「子どもの育児や家庭教育」、40 代以上は「健康づくり」が最も多く、年代によって関心のある分野に特徴が見られます。

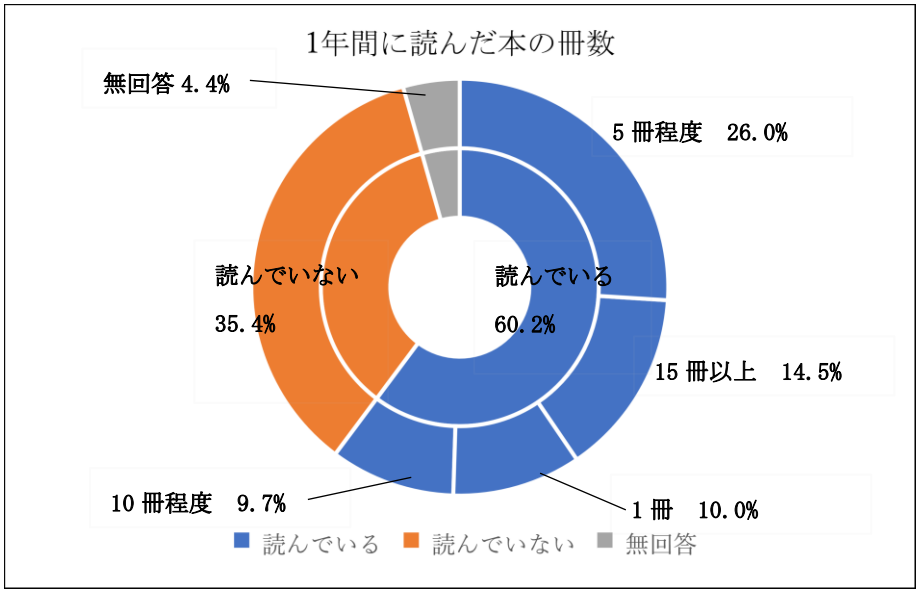
あなたがこれから学習したいことは何ですか。（回答数　1,435）

年代別　上位 3 項目

年代	1 位	2 位	3 位
10 代	職業に関する知識や技能	政治や経済、スポーツ・レクリエーション（2 位が 2 つ）	
20 代	子どもの育児や家庭教育	職業に関する知識や技能	スポーツ・レクリエーション
30 代	子どもの育児や家庭教育	スポーツ・レクリエーション	職業に関する知識や技能
40 代	健康づくり	職業に関する知識や技能	子どもの育児や家庭教育
50 代	健康づくり	スポーツ・レクリエーション	防災に関すること
60 代	健康づくり	衣食住に関する知識や技能	防災に関すること
70 代	健康づくり	防災に関すること	地域や町内会活動に関すること
全体	健康づくり	スポーツ・レクリエーション	衣食住に関する知識や技能

◎読書活動の推進

読書活動について、この 1 年間に本（電子書籍を含む。ただし、マンガは除く）を読んでいないと回答した割合は、35.4%で、2017（平成 29）年度より 1.9 ポイント増加しています。読書離れが進んでおり、生涯学習を推進する上で課題となっています。



３　本計画の基本方針

「第六次釜石市総合計画」で掲げる教育文化の目標「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」の実現に向けて、第２次釜石市生涯学習推進計画の基本方針を踏襲し、次のとおり定めます。

学びと実践が循環し、つながりを創出する生涯学習社会を目指して

４　基本目標と施策

学びと実践が循環し、つながりを創出する生涯学習社会の構築を目指して、基本目標と施策を次のとおりとします。

基本目標	施　　策
1 ライフステージや社会の要請に応じた学習機会の提供	① 乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージに応じた学習機会の提供
	② 現代的課題や地域課題に対応した学習機会の提供
2 地域全体で子どもを育む環境づくりの推進	① 家庭、学校、地域が協働した子どもを育む体制づくり
	② 家庭教育支援の充実
3 生涯学習推進体制の整備と人材の育成	① 生涯学習推進体制の整備と情報の発信
	② 大学や関係機関・団体との連携強化
	③ 学習支援・指導を行う人材の育成
4 生涯学習拠点施設の適切な管理と整備	① 公民館や図書館など生涯学習の拠点となる施設の適切な維持管理と整備
5 読書活動の推進	① 読書活動の推進と専門職員の育成

基本目標１　ライフステージや社会の要請に応じた学習機会の提供

施策①　乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージに応じた学習機会の提供

生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、乳幼児期から高齢期までの生涯の各時期における学習ニーズや課題に応じた学習機会を提供します。また、地域の行事や農業体験などを通じた世代間交流や、郷土の自然・歴史・文化にふれる機会などを提供します。

さらに、共に学び、共に支え合う地域社会を形成するため、障がい・障がい者への理解促進や芸術文化に親しむ機会の創出、生涯スポーツの推進や健康づくりなど関係機関と連携しながら取り組みます。

施策②　現代的課題や地域課題に対応した学習機会の提供

変化が著しい現代社会に適応するため、男女共同参画社会の形成や環境保全、地域防災・安全、消費者問題、人権問題、情報通信技術の活用などの現代的課題や地域課題に関する学習機会を提供します。また、学習活動によって得られる人とのつながりを生かし、さらなる学習活動やボランティア活動などにつながるよう支援します。

◆評価の指標

指　　標	現状値 （令和３年度）	目標値 （令和８年度）	目標値 （令和13年度）
公民館主催事業の実施回数	794 回	840 回	900 回
公民館主催事業への参加者数	10,783 人	12,000 人	14,000 人
生涯学習の活動を行っている人の割合※	44.6 %	47.0%	50.0%

※生涯学習基礎調査結果から

基本目標２　地域全体で子どもを育む環境づくり

施策①　家庭、学校、地域が協働した子どもを育む体制づくり

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、地域と学校が子どもたちの成長に向けての目標を共有し、連携・協働して取り組む体制づくりが必要です。このため、市内各小中学校に導入されるコミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）と連動し、学校支援や環境整備、各種体験活動のサポートなどを行う地域学校協働活動の実施や、子どもが安心して活動できる居場所づくりに取り組みます。さらに、地域と学校が連携・協働することで、新たな人と人のつながりが生まれ、地域住民などの「学び」の場になることも期待されます。

施策②　家庭教育支援の充実

家庭教育は全ての教育の出発点であり、子どもたちが基本的な生活習慣や思いやり、人への信頼感、自立心などを身に付ける上で重要な役割を担っています。近年、核家族化や地域社会とのつながりの希薄化などを背景に、家庭の教育力の低下が指摘されていることから、保護者などに対し子育てに関する学びの機会や情報の提供など、学習面からの支援を行います。また、子育てに関する不安や悩みを解消できるよう、関係機関と協力しながら相談事業の実施や仲間づくりに取り組みます。

◆評価の指標

指　　標	現状値 （令和３年度）	目標値 （令和８年度）	目標値 （令和13年度）
放課後子ども教室利用人数	1,980人	3,200人	3,600人
子ども・子育て学習講座実施回数	2回	5回	10回

基本目標３　生涯学習推進体制の整備と人材の育成

施策①　生涯学習推進体制の整備と情報の発信

釜石市は生涯学習の推進によるまちづくりを目指して、平成15年に生涯学習推進本部を設置しました。本部事業として、市内部だけではなく、国や県、各種団体との連携をもとに実施する「生涯学習まちづくり出前講座」を実施しており、今後も社会の状況に応じてメニューの見直しなどを図りながら実施していきます。

また、市内８カ所にある生活応援センターは公民館を兼ねており、保健・医療・福祉・生涯学習が連携し、地域課題に対応した取り組みを行っています。学びの成果が自らの行動の変容を促し、地域の活力につながるよう引き続き支援を行います。

生涯学習を推進する上で必要な情報提供の在り方については、生涯学習情報誌「まなびぃ釜石」や教育広報、公民館だよりなどを発行していますが、市のホームページやLINEなどを積極的に活用し、複数の媒体による情報提供を行います。

施策②　大学や関係機関・団体との連携強化

岩手大学との相互友好協力協定に基づく生涯学習講座や、さまざまな大学と連携した市民の学ぶ意欲を刺激する教養講座などを継続して行います。今後も高等教育機関や関係団体、関係機関と連携し、オンラインの活用も取り入れながらさまざまな生涯学習関連事業を実施します。

施策③　学習支援・指導を行う人材の育成

生涯にわたる学びを支援するとともに、学びの成果が適切に地域社会に還元されていくよう、生涯学習及び社会教育の指導的役割を担う人材を育成します。

特にも、地域全体で子どもを育んだり、読書活動を推進するためには、地域と学校をつなぐコーディネーターや地域住民などのボランティアの存在が欠かせません。人材の発掘、育成と、それに携わる関係職員の資質の向上に努めます。

◆評価の指標

指　　標	現状値 （令和３年度）	目標値 （令和８年度）	目標値 （令和13年度）
生涯学習まちづくり出前講座の利用回数	44回	50回	60回
大学と連携した講座の実施回数	1回	3回	5回
地域コーディネーター数	5人	12人	14人
地域学校協働活動ボランティア延べ人数	682人	1,400人	2,000人

基本目標４　生涯学習拠点施設の適切な管理と整備

施策　公民館や図書館など生涯学習の拠点となる施設の適切な維持管理と整備

公民館や図書館、市民ホール、市民体育館などの施設では、市が行う催しの他、自主サークルによる活動など、さまざまな学習活動が実施されています。これらの社会教育施設は、地域の生涯学習及びまちづくり活動の拠点としてさらなる利活用が期待されています。一方、老朽化が進む施設も多くあることから、適切な維持管理に努めるとともに、施設の在り方について引き続き検討します。

◆評価の指標

指　　標	現状値 （令和３年度）	目標値 （令和８年度）	目標値 （令和13年度）
市民１人当たりの公民館利用回数	1.6回	1.9回	2.3回
図書館利用者数	20,224人	20,600人	21,000人

基本目標５　読書活動の推進

施策　読書活動の推進と専門職員の育成

市は、令和２年４月に「第４次釜石市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができるよう取り組んでいます。

読書は人生を豊かなものとしていくために必要であるとの認識の下、図書館を中心に子どもから大人まで市民が求める図書資料の充実やサービスの提供に努め、読書活動を推進していきます。また、専門職員の研修機会の充実などを通して、読書に親しむことのできる環境づくりに取り組みます。

◆評価の指標

指　　標	現状値 （令和３年度）	目標値 （令和８年度）	目標値 （令和13年度）
市民１人当たりの図書貸し出し冊数	2.2冊	2.4冊	2.7冊
１年間に１冊以上本を読んだ人の割合※	60.2%	61.6%	62.9%

※生涯学習基礎調査結果から

第３次釜石市生涯学習推進計画

発行　令和５年３月
編集　釜石市市民生活部まちづくり課
　　岩手県釜石市只越町３丁目９番13号
電話　0193-22-2111（代表）
FAX　0193-22-9505
URL　https://www.city.kamaishi.iwate.jp